

「当期業績のご報告」

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

本日公表いたしましたとおり、2019年3月期（21期）の業績は、連結売上高については公表数値8,500百万円を上回る約8,675百万円の見通しとなりました。これは、上半期においてEC事業が堅調に推移したことに加えて、CRO事業が安評センター加入により大幅増収となったことによるものです。

また、損益に関しましては、本日リリースにも記載のとおり、営業利益については若干未達だったものの、経常利益及び最終利益については、公表数値を上回る見通しとなったこと、また、CRO事業の拡大によるバイオセグメント事業の大幅な増益、TGBS事業セグメントの堅調な利益貢献が達成できたことを踏まえ、概ね当初計画通りの事業年度であったと考えております。

<今後の展望>

今後につきましては、引き続きバイオ事業セグメント及びTGBS事業セグメントの収益拡大施策に注力して参ります。特に、昨年グループ入りした安評センターは、その潜在能力に対しての拡大余地が十二分にあり、人材・研究機器等への更なる投資を実施する方針です。また、CRO事業セグメントの事業価値を高めるため、当社の強みである遺伝子改変技術を最大限に活用し、高度な病態モデル動物作製に関する研究開発に取り組んでまいります。なお、これら人材・設備・研究開発に関する先行投資負担増については、バイオ事業セグメント及びTGBS事業セグメントの収益基盤の拡大で吸収可能と考えております。また、TGBS事業セグメントにおいては、2019年4月1日に株式会社TGMを連結子会社化いたしました。株式会社TGMの加入により、グループ全体の収益基盤及び投資体力の一層の強化が図れると考えております。

2020年3月期業績予想につきましては、2019年4月1日にグループ入りした株式会社TGMの業績予測を踏まえ現在作成中であり、2019年5月10日公表予定の2019年3月期決算発表時に開示をいたします。

当社は「創一流」の創業精神のもと「世界の人々の健康と豊かな暮らしの実現に貢献する」という経営理念を誇りに日々の業務に邁進してまいります。

皆様のより一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2019年4月24日

株式会社トランスジェニック

代表取締役社長

福永健司